

緑の相談所だより

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

住所 旭川市神楽岡公園内

電話 0166-65-5553

発行：平成20年 6月 1日

No.112

講習会のご案内

「山野草の育て方」(初級)

とき 平成20年6月8日(日) PM1:30~3:30 定員50名
講師 北海道山草趣味の会 会長 松本 信作さん

コンテナガーデン「寄せ植えづくり」

とき 平成20年6月22日(日)
PM 1:30~3:30 定員 15名
講師 緑の相談所 相談員 伊藤 征夫
場所 永山中央公園 教材費 800円

「バラづくり実践」(剪定と育て方)

とき 平成20年6月29日(日)
PM 1:30~ 3:30 定員 50名
講師 旭川バラ会 会長 後路 和美さん

「楽しい家庭園芸」(花と野菜の病害虫を知ろう)

とき 平成20年7月13日(日)
PM 1:30~ 3:30 定員 50名
講師 緑の相談所 相談員 青田 盾彦

コンテナガーデン「寄せ植えハンギング」

とき 平成20年7月19日(土)
PM 1:30~3:30 定員30名
講師 緑の相談所 相談員 佐藤 吉光
教材費 800円

緑のセンターまつり

平成20年8月10日(日)

展示会のご案内

「山野草展」

とき 平成20年6月 6日(金)~ 8日(日)
出品 北海道山草趣味の会

「バラ展」

とき 平成20年6月27日(金)~29日(日)
出品 旭川バラ会



- ☆展示会の初日は準備の為ご観覧は午後からになります。
- ☆4月から9月まで第2・4月曜日は休館日です。
- ☆10月以降、毎週月曜日休館(祝日の場合は翌日)

「植物写真展」

とき 平成20年7月1日(火)~31日(木)

6月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

- ❖ 秋植え球根のチューリップなどは、花が終わったら、花から摘みを行い、花首や花茎は切り取りますが葉は刈り取らず、球根の肥大を図ります。
- ❖ 観葉植物のカボックなど節間が伸び乱れた株は切り戻して剪定し、取り木をする時期です。また、根詰まりしている鉢は植え替えの適期です。
- ❖ ポインセチアは剪定し、植え替えの時期です。処理後2週間までは水やりのみ、新芽の発生で液肥を与えましょう。

2 庭木・果樹類

- ❖ クロマツなどの類は移植、定植の時期です。また、新芽が伸び樹形が乱れてくるのでみどり摘みといって柔らかい棒状の芽を指で折って調整しましょう。
- ❖ ツツジ、シャクナゲ、ライラックなどは花後、花から摘みをしましょう。
- ❖ リンゴ、ナシはなるべく早く一箇所から出た複数果実のうち形が良く大きい果実を1つ残し、フラムやフルーンは果実がぶつからない程度に摘果しましょう。
- ❖ シンクイガイの発生(下旬に第1回産卵期)が多くなりましたので、リンゴ、ナシは袋かけ(6月下旬~7月上旬)をし、スモモ類は定期的に殺虫剤を散布しましょう。

お問合せ：電話(0166)65-5553

旭川市緑の相談所へお気軽にお電話ください。

7月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

- ❖ パンジー、テージーは来年の春花壇用に中旬ごろまでに種をまきましょう。
- ❖ 春植え球根のダリア、カンナ、グラジオラスなどは盛んに生長していますので支柱立てをし開花後は花から摘みをしましょう。
- ❖ フーゲンビシヤは開花期です。開花後、新梢が伸びたら順次切り戻し、水やりを控え、日当たりの良い場所で管理しましょう。
- ❖ ポインセチアは生育が盛んな時期です。肥料と水は切らさず、日光に十分当てましょう。
- ❖ クジャクサボテンは直射日光に十分当て肥培管理し茎を太らせましょう。

2 庭木・果樹類

- ❖ 針葉樹の枝は葉が付いていないと枯れやすいので、深く刈り込んだ強剪定はできませんので注意しましょう。
- ❖ 生垣、玉物、イチイ(2度刈り)の剪定時期です。なお、花木類はすでに花芽ができかかっているため刈り込むと全体の花芽を落としてしまうので注意しましょう。
- ❖ ライラック、レンギョウ、フジ、ツツジなどは花芽ができる時期なので、リン、カリを多く含む肥料をやきましょう。
- ❖ 今月下旬、スモモ類にシンクイガイの2回目の産卵期ですので、殺虫剤を散布しましょう。また、リンゴに黒点病、ナシに赤星病などが発生しやすいので殺虫剤を散布しましょう。
- ❖ リンゴ、ナシ、サクランボ、スモモなどは枝の背面から直立した枝(徒長枝)が勢い良く出て、日当たりを悪くしますので剪定しましょう。(夏剪定)

植物の病害虫

その1 「灰色カビ病」

灰色カビ病菌はトマト、ナスなどの果菜類の他、葉菜や花卉、果樹など多くの植物を侵します。

○病気の症状

葉では褐色の大きな病斑を作り、湿度が高いと灰色のカビが生じます。

果実では急激に軟化し、果実全体が灰色～淡褐色となり粉状のカビに覆われます。

花では花弁が淡褐色になり、やがて腐敗し灰色のカビが生じます。

(腐敗した部分に灰色のカビが生じるのが本病の特徴です。)

○どのような条件で発生するか

20℃前後の多湿条件で発病しやすく、また胞子をたくさんつくります。

多湿を好むため曇雨天が続くと発生が多くなります。

灰色カビ病菌は、植物の健全な部位からは感染できません。傷口や萎れた花弁から感染します。特に花弁からの感染に注意が必要です。萎れた花弁は非常に腐れ易いため、まず菌は葉や茎の上に落ちた花弁や果実に付着した花弁に感染し、腐敗します。この腐敗した部分に接触している葉や果実へと感染は広がります。

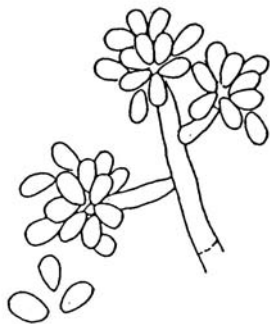
○伝染と防除

多湿下で発生しやすいので、株と株の間隔をあげ、風通しを良くしましょう。

花弁に感染しやすいので、萎れたり枯れたりした花弁は早めに取り除きましょう。

発病した茎葉も伝染源となりますので早めに取り除きましょう。

窒素肥料の過用は植物体を軟弱し、病気に罹りやすくなりますので注意しましょう。



顕微鏡でみた灰色カビ病菌の胞子(小さな楕円形のもの)です。灰色カビ病にかかった部位が灰色に見えるのは胞子の塊です。胞子の大きさは1/100mm程度です。

初夏を彩る カンボク(肝木)

スイカズラ科 ガマズミ属

北日本の山地に生え、高さ2~7mになる。葉は対生で、長さ5~11cmで3中裂し、ふちに不揃いな鋸歯がある。6~7月、枝先に直径10cmほどの散房花序をだして、直径4mmの小さな両性花を多数つける。花序のふちを直径約2cmの皿形で5弁の白い装飾花がとり巻く。核果は直径7~9mmの球形で、9~10月に赤く熟す。

テマリカンボク(手毬肝木)は、カンボクの品種で日本原産。観賞用に植えられ、高さ2~4mになる。6~7月、枝先に大きな球状の花序を出して、直径約2cmの白い装飾花だけをつける。通常結実しない。



展示室の植物たち (19)

ソテツ (蘇鉄)

ソテツ科 ソテツ属

宮崎県以南に分布、公園や庭などに植えられている。
高さ1m~5mになる茎は円柱形で葉の落ちた跡が全面にある。
花は6~8月に茎の先につく、雌雄異株。

雄花は長さ50~70cmで鱗片状の雄しべが多数あり、裏一面に葯室がつく。
雌しべは球形で羽状に裂けた多数の心皮からなる。心皮には淡褐色の綿毛が密生し、基部に3から6個の胚珠がある。種子は長さ2~4cmのやや扁平な卵形で光沢のある朱赤色。

当温室には雄株があり、毎年一人寂しく雄花を咲かせています。